

高齢透析患者の家族支援について

長崎腎病院

○藤原久子 林田めぐみ 澤瀬健次 佐々木修 一ノ瀬浩 橋口純一郎
原田孝司 船越哲

【はじめに】

透析患者を支える家族は、日々心労や苦労の中患者を支えている。それに対し本邦では介護保険各種社会資源がある。しかしあまりにも家族の疲弊が強くなると、目の前にある社会資源活用に踏み込めない心理状況に陥る。当院における2症例を考察する。

【症例】

- ① 84歳女性、母の介護の為に娘は同居開始。認知症増悪と共に介護負担増大。疲弊した娘を心療内科へ紹介する事で社会資源導入となる。
- ② 77歳男性、妻の介護負担が増大するも社会資源利用はなく、妻が不定愁訴にて当院の外来を頻回受診。心療内科を紹介した後介護保険利用に至る。

【結果】

2症例とも心療内科受診に導く事で家族の精神的な苦痛や苦悩が和らぎ、社会資源を導入するに至った。それにより介護者自身の介護負担が軽減した。

【まとめ】

介護問題は深刻化している。しかし社会資源を導入する事で何とか出来る場合が多いが、その社会資源すら使う事の出来ない程疲弊してしまった家族に対し、医療者側は粘り強く支援し続ける事で初めて次の展開が開ける。